

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年5月12日 (2011.5.12)

【公開番号】特開2009-148579(P2009-148579A)

【公開日】平成21年7月9日 (2009.7.9)

【年通号数】公開・登録公報2009-027

【出願番号】特願2009-25240(P2009-25240)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/82 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 29/02

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月29日 (2011.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

解剖学的構造体への移植に適するデバイスであって、

第 1 の脚部を画定する第 1 組の複数のワイヤであり、該第 1 の脚部は第 1 の末端部を有し、第 1 組の複数の前記ワイヤは直径 0 . 0 0 5 インチから約 0 . 0 1 1 インチである、ワイヤと、

第 2 の脚部を画定する第 2 組の複数のワイヤであり、第 2 の脚部は第 2 の末端部を有する、ワイヤと、

遠位端と基部とを有する共通ボディであり、前記共通ボディは、少なくとも第 1 組と第 2 組の複数のワイヤから形成され、前記共通ボディの基部は、両脚部の末端部に隣接し、且つ前記複数の組のうちの一つの組の少なくとも一つのワイヤの両端が前記共通ボディの遠位端に近接して位置し、前記共通ボディは周縁を有し、前記周縁において 10 mm の減少を惹起させるために少なくとも 167 g 重を必要とするように構成されている、共通ボディ

、
とを含む、デバイス。

【請求項 2】

前記第 1 組と第 2 組の複数のワイヤはニチノールよりなる、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 3】

前記第 1 組と第 2 組の複数のワイヤは、FePt、FePd、又はFeNiCoTiよりなる、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 4】

前記第 1 組と第 2 組の複数のワイヤは、FeNiC、FeMnSi又はFeMnSiCrNiよりなる、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 5】

前記第 1 組と第 2 組の複数のワイヤの各々は、約 0 . 0 0 5 インチから約 0 . 0 1 1 インチのサイズの範囲の直径を有する、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 6】

前記第 1 組の複数のワイヤは、少なくとも 5 本のワイヤを含む、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 7】

前記脚部と前記共通ボディの両方は、実質的に均一な直径を有するチューブ形状である、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 8】

前記脚部の内の少なくとも一つが手編みである、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 9】

更に、少なくとも前記共通ボディに取り付けられる接木材料を備える、請求項 1 に記載のデバイス。

【請求項 10】

前記接木材料は、編まれたダクロンよりなる、請求項 9 に記載のデバイス。

【請求項 11】

前記接木材料は、ポリウレタンよりなる、請求項 9 に記載のデバイス。

【請求項 12】

前記接木材料は P T F E よりなる、請求項 9 に記載のデバイス。

【請求項 13】

ステントがさらに、第 3 の脚部を画定する第 3 組の複数のワイヤであり、第 3 の脚部は第 3 の末端部を有する、ワイヤを含み、
ここで、前記共通ボディは、少なくとも第 1 組、第 2 組、及び第 3 組の複数のワイヤから形成され、前記共通ボディの基部は、前記三つの脚部それぞれの末端部に隣接する、請求項 1 のデバイス。

【請求項 14】

前記複数の組それぞれのワイヤは、ニチノールよりなる、請求項 13 に記載のデバイス
。

【請求項 15】

前記第 1 組の複数のワイヤは、少なくとも 5 本のワイヤを含む、請求項 13 に記載のデバイス。

【請求項 16】

前記それぞれの脚部と前記共通ボディは、実質的に均一な直径を有するチューブ形状である、請求項 13 に記載のデバイス。

【請求項 17】

前記脚部の内の少なくとも一つは手編みである、請求項 13 に記載のデバイス。

【請求項 18】

更に、少なくとも前記共通ボディに取り付けられる接木材料を備える、請求項 13 に記載のデバイス。

【請求項 19】

前記接木材料は、編まれたダクロンよりなる、請求項 18 に記載のデバイス。

【請求項 20】

前記接木材料は、ポリウレタンよりなる、請求項 18 に記載のデバイス。

【請求項 21】

前記接木材料は P T F E よりなる、請求項 18 に記載のデバイス。

【請求項 22】

解剖学的構造体への移植に適するデバイスを形成するための方法であって、前記デバイスは、第 1 の脚部、第 2 の脚部、及び共通ボディを有し、各脚部は、端と末端部とを有し、前記共通ボディは、基部と遠位端を有し、

前記方法は、

第 1 組の複数のワイヤ中の前記ワイヤを曲げて前記ワイヤに第 1 の曲げ部を形成することを含み、前記第 1 の曲げ部は、前記第 1 の脚部の前記端を画定するように配置され、前記第 1 組の複数のワイヤの各々が 2 つの端を有し、

第 2 組の複数のワイヤ中の前記ワイヤを曲げて前記ワイヤに第 2 の曲げ部を形成することを含み、前記第 2 の曲げ部は、前記第 2 の脚部の前記端を画定するように配置され、前

記第 2 組の複数のワイヤの各々が 2 つの端を有し、

前記第 1 組の複数のワイヤの端を編んで前記第 1 の脚部を形成することを含み、第 1 の脚部のワイヤは、お互いに、第 1 の脚部が軸方向に圧縮されたときに増大する、第 1 の複数の角度を形成し、それぞれの角度はその中で鈍角であり、

前記第 2 組の複数のワイヤの端を編んで前記第 2 の脚部を形成することを含み、

両方の組のワイヤの端をテンプレートのまわりに編んで前記共通ボディと前記デバイスとを形成することを含み、

前記テンプレートから取り外すことなく前記デバイスを加熱処理することを含み、

ここで、前記共通ボディの基部は、両脚部の前記末端部に隣接し、前記共通ボディは周縁を有し、前記周縁において 10 mm の減少を惹起させるために少なくとも 167 g 重を必要とするように構成されている、方法。

【請求項 2 3】

前記第 1 の曲げ部がベントである、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 4】

前記第 1 の曲げ部がループである、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 5】

前記第 1 組と第 2 組の複数のワイヤはニチノールよりなる、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 6】

前記第 1 組と第 2 組の複数のワイヤの各々は、約 0 . 0 0 5 インチから約 0 . 0 1 1 インチのサイズ範囲の直径を有する、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 7】

前記第 1 組の複数のワイヤの端を編むことは手作業で行なわれる、請求項 2 2 に記載の方法。